

K-ART < 8月 光の透かし絵「カレー」「宇宙」 >

<テーマを決める>

「光の透かし絵」は、切り絵のような仕上がりになる作品です。
今回は、夏休みで出席が不規則になる可能性があるため、単発プログラムの
「光の透かし絵」を2種類実施します。
「食」と「宇宙」について、掘り下げてみようと思います。

<問いを考える>

「家で食べるカレーはどんな野菜や肉が入っていますか？」
「形は残っている方が美味しい？よく煮て溶けたのものが美味しいかな？」
「好き嫌いはなく食べているかな？」

※食育的なアプローチで、いつもの自分を見つめ直す機会にします。

「宇宙ってどうなっているのかな？」
「みんなが住んでいるこの地球は太陽系の中でどの辺りにある？」
「地球は大きな星なのかな？それとも小さな星なのかな？」
「もっと小さい星を描きたいけど、どうやったら良いと思う？」

※スパッタリングという技法を用いて星を散りばめます。



やさしい K-ART

2025年8月のテーマ《光の透かし絵ワーク》

「光の透かし絵」2種類に挑戦！

カレーの作り方をイメージしながら作る作品、
宇宙を学びながら作る作品の2つを作ります。

1. フレーム
2. 光の透かし絵 (1)
3. 光の透かし絵 (2)
4. クリアシート
5. キットパス、
6. ベビーパウダー
7. アクリル絵の具
8. 歯ブラシ



<環境をデザインする>

今回は、光をテーマにしてみました。
塗り絵のように自由に塗っても、上から切り絵のように
黒いシートをかぶせることでとても素敵な作品ができます。
また、いつもの紙など不透明なものに塗るのではなく、
透明なシートに塗ることによって光が透けて、いつもとは
違う色の見え方ができるようになります。

最後に、このように光で色を透かすものとしては、
どのようなものがあるか、どういうものがあると素敵か
など、考えていきたいと思います。



<探究活動を実践し、記録する>

8/5（4歳児）

8月は夏休みということもあり、お休みも多く出ることを予想し、1回で完成する「光の透かし絵」というプログラムを2種類実施する予定としており、今回は「カレーライス」を作成しました。

カレーライスは、いつも大好きで食べているメニューということもあり、みんなノリノリで好きなカレーの種類の話、カレーの具材の話をしなが、楽しくキットパスで色付けていきました。

色塗りをした後に、黒いシートをかぶせることで自分たちが想像をしていた色がそれぞれの部分の枠の中にしっかりと色付けされ、「きれい〜」「おいしそう」と言いながら完成に満足そうでした。





<探究活動を実践し、記録する>

8/5 (5歳児)

年長さんはどんなカレーにするか、どういう色にするか時間をかけて悩む子もいれば、自分で思い浮かべたアイデアをどんどん形にしていく子もいて、年中さんよりもその差があるように感じました。ただ、遅いのが悪いとか早いのが良いということはなく、自分で考えること、人の動きを参考にして自分のアイデアを固めること、どちらも大人になってから必要なことだと思いながら見ていました。最終的には、みんな満足な笑顔で作品を持って帰りたい！と言っていました。またいつも参加できない子が自分からやりたいと参加をしてくれたのはとても嬉しい出来事でした。





< 探究活動を実践し、記録する >

8/19 (4 歳児)

今回は「宇宙」ということで「太陽系 (solar System)」についてお勉強をしながら、自分の宇宙を作る色付けをしてもらいました。途中から保護者のお母さんがひとり見学をされていたので、「見て見て!」と子どもたちのテンションも高まっていました。

宇宙にある惑星の名前や大きさを学んだり、「みんなが住んでいるところはどこ?」とクイズを出しながら理解を深めていきました。「田町!」という答えに大笑いでした。

前回お休みだった子は、「カレーライス」も作成して、一つをフレームに入れる選択をしてもらった結果としては、宇宙を選択した子が9人中8人、カレーライスは1人という結果でした。

みんなとても喜んでいて満足気な笑顔を見せてくれました。





<探究活動を実践し、記録する>

8/19 (5歳児)

前回お休みだった子も多かったのですが、「カレーライスも作りたい!」ということで、お休みだった子は2種類作ってもらいました。

保護者の方の見学で、優しい方のご両親が常に話かけていて、子どもたちも嬉しそうでした。やはり、保護者の方からの誉め言葉は子どもたちの自己肯定感を高める大きな要素だということを再度認識できた時間でした。キットパスは水で消せる、お米で作られているなど子どもたちが教えるように自ら説明をしてくれていました。色の塗り方も自ら指でのばしたり、キットパスを塗り重ねて混色をしたり、どんどん進めていました。

黒いカバーをかぶせると素敵な作品が浮かぶあがり、とてもうれしそうでした。

